



【6月は環境月間】

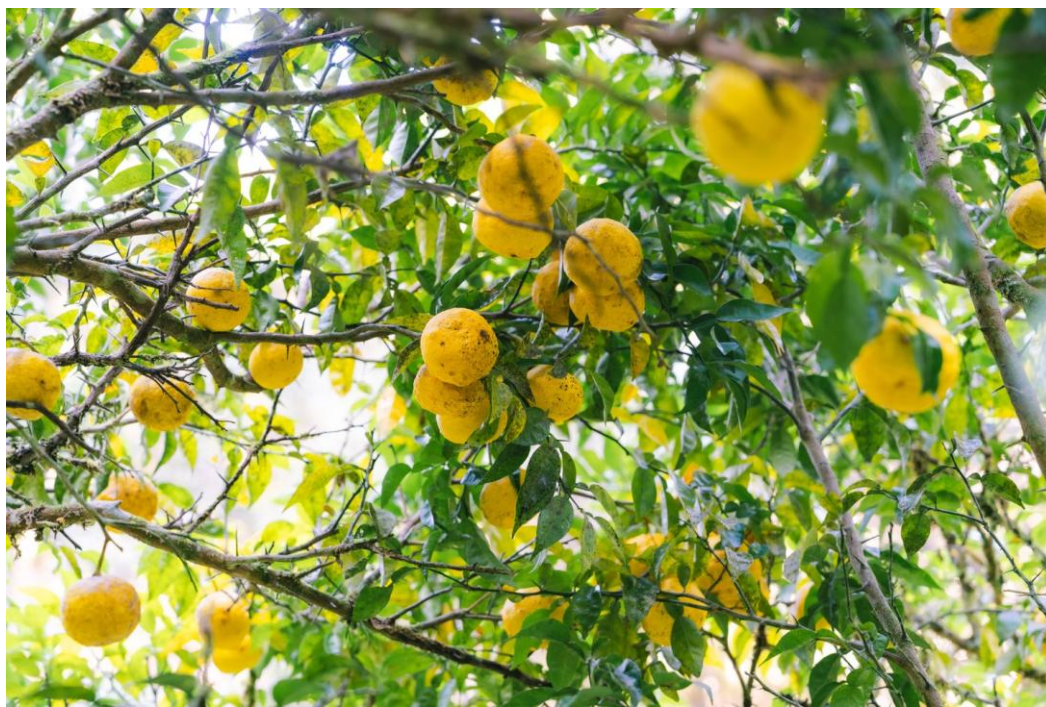
高知県産ゆず、搾汁量の約半分が残渣に。
草花木果がアップサイクルで「ゆず」の美容価値を創出。

～ ゆずの恵みを美しい肌の未来へ。J-Beautyが描く、循環型ものづくり～

株式会社キナリ（本社：東京都品川区、取締役社長：山本 理史）が展開する、設立25周年を迎えた自然派化粧品ブランド『草花木果（そうかもっか）』は、環境省が推進する6月の環境月間に合わせ、高知県産ゆずにおける未利用資源を活用したアップサイクルの取り組みをご紹介します。

日本一のゆず産地である高知県では、ゆずの収穫後、搾汁量の約半分が残渣（ざんさ）として発生し、その多くが未活用のまま処理されています。草花木果は、この未利用資源に着目し、独自の化粧品原料「ユズ果皮エキス※1」の開発に成功しました。

本取り組みを通じて、未利用資源の有効活用と地域資源循環の可能性を美容領域から発信してまいります。



高知県中山地区の実生のゆず

■ 高知県のゆず産業が抱える課題

草花木果は2001年のブランド誕生以来、「植物とともに」を哲学に掲げ、植物の力を活かした商品づくりを続けてきました。なかでも高知県産ゆずは、ブランドを象徴する重要な素材のひとつです。

ゆず収穫の最盛期には収穫支援を行い、生産者や加工場との交流を重ねてきました。そのなかで見えてきたのが、ゆず産業における未利用資源の課題です。

ゆずの果汁や果皮は広く活用される一方で、内皮や種子のほとんどは有効利用が見出せず、搾汁後に残渣となります。生産者への取材では、収穫されたゆずの約半分が未利用資源となっており、高知県中山地区の加工場では年間約200～250トンもの残渣が生じ、その多くが廃棄されています。



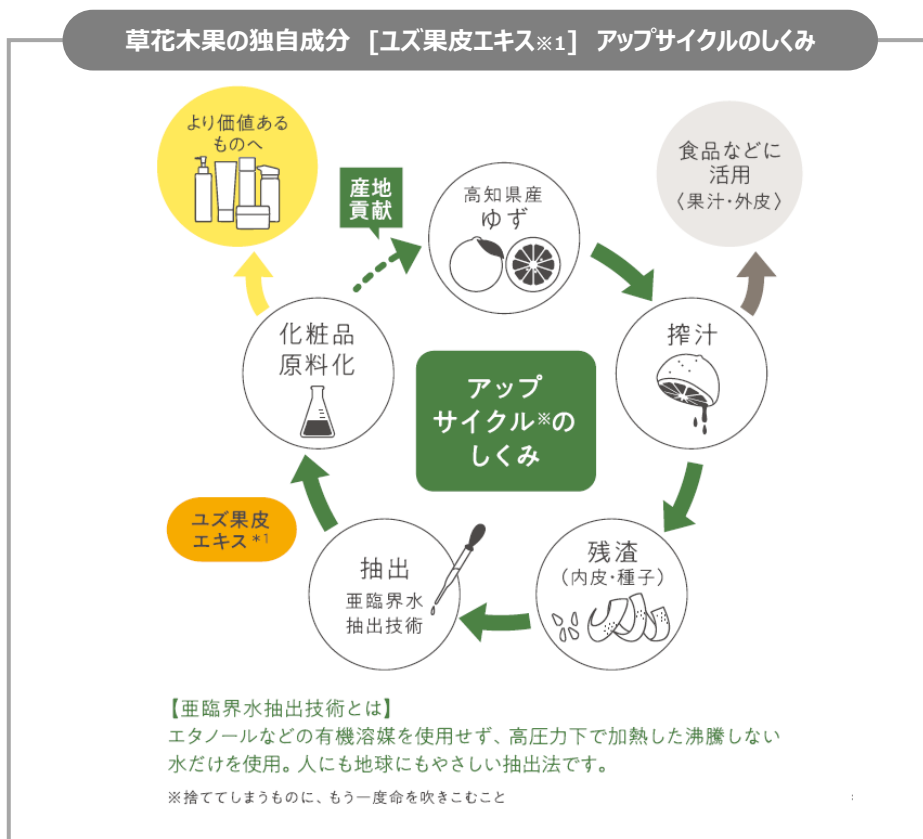
収穫されたゆずの搾汁の様子

ゆずの搾汁後に発生する残渣

■ 廃棄されるはずのゆずの残渣を化粧品原料へ

2021年秋、収穫支援で訪れた高知県の加工場で、搾汁後に積み上がるゆずの残渣を目にしたことをきっかけに、「この残った果実を、もっと大切にできないか」という想いからアップサイクルの取り組みが始まり、研究開発を重ねました。そして2024年、廃棄されるゆずの残渣から抽出した草花木果の独自成分「ユズ果皮エキス※1」の開発に成功しました。

草花木果は、高知県産ゆずをはじめとする未利用資源の活用を通じて、資源循環型のものづくりと美容領域における新たな価値創出に取り組んでいます。



■ 捨てられるはずの「ゆず」が、美しい肌の未来を変える

草花木果はさらに、この取り組みを美容科学の領域へと発展させるため、2026年4月より神奈川大学 化学生命学部 生命機能学科 食品美容科学研究室（教授：野嶽 勇一）との共同研究を開始しました（※2）。

本研究では、ゆず残渣由来成分が皮膚細胞に与える影響を検証し、その機能性の科学的解明を目指して、未利用資源から生まれる新たな美容価値の可能性を探求していきます。

■ 日本ならではの自然観とともに、地域資源を活かすものづくり

近年、世界で注目される「J-Beauty」には、地域の自然素材を大切にする日本独自の文化と、優れた科学技術を融合させたものづくりという価値観があります。

2001年の創業以来、植物の美を育むちからを製品づくりに役立ててきた草花木果が、新たに取り組む高知県産ゆずのアップサイクルは、自然の恵みを余すことなく有効活用し、生産者とともに価値を育みながら未来へつなぐプロジェクトです。

未利用資源に新たな可能性を見出し、地域資源の循環へとつなげることで、これからも持続可能なものづくりに挑戦してまいります。

■ 高知のゆず生産現場を通して「ゆずの循環」を紐解くインタビュー記事を公開中



左：JA高知県農業協同組合 中山ユズ加工場 西尾さん 右：株式会社キナリ 取締役社長 山本

草花木果の製品に欠かせない、高知県産ゆず。その背景には、搾汁後に生じる残渣の一部が活用されずに廃棄されているという、産地の課題があります。

草花木果では、高知県安芸市・中山地区のゆず農家および加工場を取材した特別インタビュー記事「高知ゆず農家・加工場が紡ぐ“生命”と“循環”の物語」を公開しています。

本記事では、ゆず栽培を支える生産者の取り組みや工場の工夫を通じて、「ゆず」をめぐる取り組みについて紐解いています。

【記事の詳細はこちらからご覧いただけます】

URL：https://www.sokamocka.com/user_data/column/2512yuzufarm_interview/

■ 高知県産「ゆず」の恵みを暮らしへ

草花木果では、高知県産ゆずの残渣を有効活用した独自成分「ユズ果皮エキス※1」を配合したスキンケアラインとして、「毛穴・ハリケア※3」を展開しています。日々のスキンケアを通じて、ゆずの豊かな恵みを提供しています。草花木果は今後も、循環型ものづくりの一環として、独自成分「ユズ果皮エキス※1」の可能性をさらに広げ、新商品を順次リリースしていく予定です。

これからも、植物の力を活かした価値ある製品づくりを通じて、自然と人がともに美しくあり続ける未来を目指してまいります。



左：草花木果 ホイップフォーム 右：草花木果 エッセンスローション

※1 保湿成分

※2 詳細は、2026年5月配信のプレスリリース「[【株式会社キナリ】神奈川大学と「ゆず残渣」の皮膚有用性に関する研究を開始](#)」をご参照ください。

※3 「メイク落としオイル N」「洗顔石けん」を除く

<取材のご案内（撮影・インタビュー）>

本件は、以下の取材・撮影に対応しております。（※季節により内容は調整）

- ・高知県中山地区のゆず収穫や加工場での搾汁の様子
- ・高知県の加工場に積み上がる、搾汁後に生じるゆずの残渣
- ・独自成分「ユズ果皮エキス」
- ・神奈川大学 野嶽 勇一 教授による共同研究に関するコメント
- ・株式会社キナリ（取締役社長：山本）や生産者へのインタビュー
- ・製品ならびに製品画像の貸出・提供 …等

詳細は、下記の広報問い合わせ先までご連絡ください。

草花木果について



草花木果は、『植物由来成分』『肌へのやさしさを考えた無添加』『天然香料 100%』をコンセプトに掲げて、2001年に誕生しました。

雄大な自然の厳しい環境に適応してきた「草」「花」「木」「果」の生命力あふれる植物のちからを活かし、機能性と肌へのやさしさ、素材にこだわる自然派化粧品ブランドです。

【会社概要】

会社名：株式会社キナリ

所在地：東京都品川区東品川2-2-24

代表者：取締役社長 山本 理史

資本金：1,000万円

事業内容：化粧品の企画・開発・販売

URL：www.sokamocka.com

<本リリースに関するお問い合わせ先>

株式会社キナリ 〒140-0002 東京都品川区東品川2-2-24

PR・広報：岩田 / TEL：090-6392-6109

e-mail：etsuko-iwata@kinari.co.jp

<お客さまからの商品に関するお問い合わせ先>

キナリお客さまセンター：0120-47-8910

公式ブランドサイト：www.sokamocka.com